

# 広報なみえ 浪江のこころ通信 に関するアンケートにご協力ください

「広報なみえ」「浪江のこころ通信」を読者の皆さまにとってより良いものとするため、アンケートにご協力をお願いいたします。

ご回答はこのページ下のハガキにご記入のうえご返送ください。(メールでも受け付けます。 [e namie12030@town.namie.lg.jp](mailto:namie12030@town.namie.lg.jp) までお送りください)

## 問1

「広報なみえ」は避難先届出住所へ送付しています。今後の送付についてお聞かせください。

- A) 現状どおりでよい
- B) 新たな送付先を追加したい(追加する送付先住所)
- C) 送付を停止してほしい(現在の送付先住所)
- D) 送付先を変更したい(新しい送付先住所)

## 問2

広報なみえの「浪江のこころ通信」は、**帰町の意味や時期に関わりなく町民の皆さまのふるさとへの思いを共有するため**発行を続けています。編集部では、紙面に登場してご自身の思いを読者と共有してくださる方を募集しています。ご協力をお願いできますか？

- A) 取材に協力してもよい
  - B) すでに取材を受けたことがあるが、再取材に協力してもよい
  - C) 以前に取材を断ったが、いまなら協力してもよい
  - D) 取材には協力できない
  - E) その他
- ※特段のご返信がない場合、事務局から取材ご協力依頼のご連絡をさしあげることがあります。

## 《広報なみえ/浪江のこころ通信に関するアンケート回答》

(答えのアルファベットに○をしてください)

問1 A B C D (B~Dの場合は住所記入)

---

---

問2 A B C D E \_\_\_\_\_

問3 \_\_\_\_\_

問4【お知らせ版について】

A B C

その理由:

お名前: \_\_\_\_\_ ( 才 )

お電話番号: \_\_\_\_\_

ご協力ありがとうございました

## 問3

すべての町民とふるさとの繋がりを維持するために、「広報なみえ」にはどんな記事・情報が掲載されているとよいと思いますか？

## 問4

### 【お知らせ版(毎月15日発行)について】

震災直後、急激な状況の変化に対応するため、月1回の「広報なみえ」に加えて毎月15日の「お知らせ版」の発行を開始しました。

しかし、現在では緊急なお知らせを要する事案が減少していることや、タブレットの配布により町の最新情報を随時オンラインで閲覧できる環境も整備されたことから、「お知らせ版」の役割は終了したと考え、元通り月1回の発行に戻すことを検討しています。

このことについて伺います。

- A) 月1回の発行でもよい
- B) 月2回の発行を続けるべきだ
- C) その他



# 古農 修一郎さん(酒井)

取材者：NPO法人市民公益活動パートナーズ 古山  
取材日：5月6日

## 「役に立ちたい」—— その思いを実現するために、僕は歩みを進める

看護大学を卒業し、今年4月から社会人としての第一歩を踏み出した古農さん。秋田市に住む両親と離れ、福島市での一人暮らしが始まりました。

「大震災の時には怪我をした人や困っている人の役には立てなかったけれど、今の僕なら何かできる。そしてこれからは、もっと」とおっしゃる古農さんの強い思いに、この大きな災害を乗り越え、立ち向かおうとする若者の気概を感じます。



▲ご自宅にて。優しい笑顔がとて素敵でした

◆浪江町から福島市へ。さらに北に向かって避難しました  
あの日、双葉高校は春休みで、午前中から部活でした。小学校3年生から始めた剣道を続け、高校でも剣道部でした。地震が起きて双葉中学校に避難。母から何度も留守電が入り、互いの無事を知りました。夜になって父が迎えに来てくれ、近所の後輩も一緒に戻りました。家は瓦が大きく崩れ、大堀の親戚を頼りました。原発事故を知った父は、祖父母たちも連れて飯坂町の知人宅へ向かいましたが、途中、物々しい自衛隊車両や白い防護服を着た人たちとすれ違い、大変なことが起きていると察しました。  
父は、子どもたちのためにできるだけ遠くに逃げることを考えていたようで、その4日後に

◆双葉や秋田の仲間や恩師とは、「今でも親密に関わり合いたい」  
避難先への転校についてはかなり迷いました。双葉高校の同級生たちは県内のサテライト校に進学。剣道部は東北大会出場を目指して掲げているものの、出場人数がギリギリで、一人でも抜けたらそれが叶わない状況でした。今でも申し訳ない気持ちで一杯です。だから、秋田中央高校に通うことになった時に剣道は辞めようと思いましたが、同級生のお父さんに部活見学を勧められて入部し、秋田県大会に出場しました。  
友人や恩師にはとても恵まれたと思います。双葉や秋田の学校や剣道部の仲間、後輩とのつながりは強く感じていて、「生き

◆いろんなことを経験したからなのか、アツという間の大学生活でした  
日本赤十字秋田看護大学に進み、4月から福島赤十字病院に勤めています。小学生の頃に、父方の祖父のお見舞いで見かけた看護師さんにぼんやりとした憧れを抱きました。東日本大震災の時、養護の先生が怪我人の手当をしているのを見て、その時は力仕事しかできなかった僕は無力感を感じました。資格を持つてば、もっと寄り添えることができるんじゃないか。それが大学と職業を選んだ理由です。  
学生の時には、日赤キッズクロスプロジェクト(被災3県の子どものための保養プログラム)や被災体験を活かした防災キャンプ、防災グッズの紹介活動、災害看護学会に関わる教授のお手伝いなど幅広く関わったり、大好きな自転車でも秋田県内や隣県を訪ねたりした4年間でした。  
これからは、役に立つための「技術を身に付ける修行期間」だと思っています。

# 浪江のこころ通信

・第61号・

平成23年3月11日に発生した東日本大震災、そして福島第一原子力発電所の事故により、福島県内外に分散避難した浪江町民。長期化する避難生活、先の見えない不安の中で、町民の皆さんがどのような思いで生活し、ふるさとへの思いを抱いているのか。

こうした町民の思いをつなげるために、“浪江のこころプロジェクト”が立ち上げられました。一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム(※)が中心となり、全国各地のNPO、大学等の皆さんが取材を進め、浪江町との連携のもと「浪江のこころ通信」が編集・発行されます。

浪江のこころプロジェクトは、分散避難している町民の皆さんの声を「浪江のこころ通信」を通してお届けし、ふるさと浪江町がかつての暮らしを取り戻すことへの願いとこたわりを発信・共有しようとするものです。

※一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアムは、東北圏(7県)の地域コミュニティ再生や協働のまちづくりの推進を目的として、大学、NPO、企業、経済団体、行政等が連携したコミュニティ支援ネットワーク。仙台が本拠地。

「浪江のこころ通信/第61号」への感想をお寄せください。  
【連絡先】〒964-0984 福島県二本松市北トロミ573番地「浪江のこころ通信」宛  
FAX.0243(22)4218



郵便はがき  
9648790  
料金受取人払郵便  
二本松局承認  
1611  
差出有効期限  
平成29年  
3月31日まで  
有効

二本松市北トロミ573  
浪江町役場 二本松事務所  
復興推進課  
「広報なみえ」担当 行





## 鈴木 健一さん(請戸)

取材者：NPO法人市民公益活動パートナーズ 古山 松田  
取材日：5月28日

### ゼロからイチへ。 ここ閉上で新たなスタートを



▲これからに向けて熱い抱負をお話くださった鈴木健一さん

名取市閉上。津波被害のシンボルとして全国ニュースにもたびたび取り上げられる日和山のすぐ側で、鈴木さんご家族の新たな挑戦が始まっています。

閉上地区水産加工団地の完成記念式典(5月26日)を終えた直後、「鈴栄」の真新しい工場に伺いました。敷地内に建てられた別棟の直売所には、新天地で再起を図る「鈴栄」のニュースを聞いた方なのでしょうか、ご自慢の「ちりめん」を求めに訪れていました。

◆神戸・舞子での暮らしは、大きな収穫がありました  
阪神・淡路地方の早春の風物詩「いかなこの釘煮」の産地として知られる舞子は、瀬戸大橋の傍にあり、漁業や水産加工業が盛んなり多かつたことを覚えています。

◆子どもたちのために、ともかく遠くへと、西に向かいました  
震災が起きたのは、中学校の卒業式に出席した長男と妻、娘との4人で遅いお昼を済ませ、自宅の工場で白魚と蛸を加工している時でした。  
請戸小学校から大平山に避難した次男や、町のコミュニティセンターに身を寄せていた長男と合流し、家族で郡山の友人宅へ。しかし、子どもたちのことが心配で、できるだけ遠くへ避難しようと思いましたが、原発がメルトダウンしたあの時が最も危険だと思いましたから、姉のいる東京や知人が住む静岡県富士市なども考えましたが、叔母やいとこが住む兵庫県へ向かったんです。  
神戸市役所では、福島からの避難者第1号として、大変迅速な対応をしていただき、直ぐに垂水区舞子の市営住宅に入居することができました。マスコミ取材もかなり多かつたことを覚えています。

◆工場の借金を返し、浪江の魚が評価を取り戻す日まで、ここで頑張ります  
私も妻も、海辺の舞子が大変気に入って  
いました  
が、相馬の知人から誘われて2013年4月に福島に戻り、仕事を手伝うことにしました  
た。2年目の秋、名取市閉上地区に水産加工

◆フェザー級4回戦ボーイとして  
今は、フィットネストレーナーとビル清掃のアルバイトをしながら、プロボクサーとしてワタナベボクシングジムに所属しています。ジムには世界チャンピオンの内山高志をはじめ、約40名のプロボクサーが所属しています。厳しい練習を乗り越えてプロとして活躍している人たちが多く、人間的にも尊敬できる人が多く、ジムの練習は苦になりません。4回戦ボーイとしての僕のリングでの戦績は、6戦3勝。上を目指して、毎朝5時から走り込み、8時からアルバイト、夕方5時からジムでの練習を続けています。



▲直売所の前で、ご家族揃って。妻の典子さん、長女の杏梨さんが出迎えてくださいますよ

「鈴栄」直売所  
〒981-1213 宮城県名取市閉上3丁目90-1  
平日・土曜日：10時～16時  
日曜日・祝日：9時～16時 ※不定休  
お問い合わせ：☎022(393)6303



## 三瓶 一樹さん(酒田)

取材者：NPO法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ 銅嶋  
取材日：5月15日

### 応援を力に… 浪江町出身のプロボクサーとして



▲ボクシングジムでの三瓶さん



▲「福島」とプリントした試合用のトランクス

高校時代からプロボクサーを夢見ていた三瓶さんは、東京都品川区五反田にあるワタナベボクシングジムに所属し、プロボクサーとして日々、厳しい練習を重ねています。

力になるのは、家族や友人、同じ福島県出身の人たちの応援だと言います。

◆浪江の仲間  
夢は、世界で活躍するボク

◆大好きな請戸の海  
震災がなかったら、東京に来て本格的にボクサーを目指すのは、もっと後になつたと思えます。震災は、次の一歩を踏み出すきっかけにもなりました。人生は後戻りできません。悪い方にはかき考えたくはありません。僕が浪江で一番好きなのは「請戸の海」です。山があり、川があり、海があり浪江の風景は僕の自慢です。福島県浪江町出身であることを誇りにして、世界的なプロボクサーを目指したいと思えます。皆さん、応援してください。

震災後、姉は神奈川の会社に就職して一人暮らし、僕も品川にあるボクシングジムの合宿所住まいなので、避難先のマンションには、父母と大学1年の妹、小学2年の弟の4人が住んでいます。浪江の自宅には、一度だけ家族みんなで帰りました。長く閉め切っていた家は、ネズミの被害もあり荒れていました。酒田は、山側の居住制限区域です。父も母も、自宅に帰ることは無理と考えているようです。